



▲高取神明宮境内のクスノキ。下の写真の『広報たかはま』の表紙と同じ木かもしれない。



▲『広報たかはま』昭和46年12月15日号表紙写真の下に「高取神明宮境内のクスの木」と書かれている。



▲高取小学校のクスノキ。神谷さんの見たであろう大木は残念ながら今はもうないが、校舎の脇で黄色い実をつけている木を発見。

“撮っておき” の たかはま

【第23回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

高浜市の木 「クスノキ」

昭和45年(1970年)12月1日に「市」になった高浜市。当時、それを記念して市民から「高浜市の木」を募集したところ394通の応募があり、上位3種が「クスノキ」146通、「サザンカ」89通、「カイズカイブキ」43通という結果となった。翌年の『広報たかはま』12月15日号の表紙で「高浜市の木にクスの木」と報じている。あわせて、「クスノキ」で応募し、当時の市長・議長の立会いによる抽選で選ばれた5人の氏名が広報の表紙に載った。その1人、神谷通夫さん(二池町)に当時の思い出を聞かせてもらった。「若いころ野球が好きでね。町内には瓦屋さんなど多くの企業で野球チームがあって、よく試合をやったんだけど、練習グラウンドが少なかったので、日曜日ごとに市内や碧南の小学校までバットとグローブを持って自転車で行ってたんだよ。そのときに高取小学校にあったクスノキと出会った。大きくて力強く、夏は日影をつくってくれるし、雨が降れば傘になってくれる。のびのびと男らしい姿で風にサラサラと葉音も心地いい。いい木だなあと今も心に残る。」

悠然とした立ち姿を誇るクスノキ。大きく成長する特性から、市の発展を託したいという思いを持った人も多かっただろう。樹液は治療薬(カンフル)や防虫剤(樟脳)になるという。実直で骨太な三河人の気質と重なるのかもしれない。

LELA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください!



編集・発行／高浜市役所総合政策グループ
〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110
<http://www.city.takahama.lg.jp/>
電子メール info@city.takahama.lg.jp

早期配布にご協力ください。

